

消 息

嶋村和恵先生のご定年退職にあたって

嶋村和恵先生はめでたく古稀を迎えられ、早稲田大学の定めにしたがって、本年 3 月末日をもって退職されました。また、研究教育両面における永年の功績に対して、4 月 1 日付で名誉教授の称号が贈呈されました。先生のご退職にあたり、学部を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

嶋村先生は 1955 年 4 月生まれで、1978 年 3 月早稲田大学商学部を卒業され、1 年間の社会人生活を経験されたのち、大学院商学研究科修士課程引き続き同研究科博士後期課程へと進まれました。学部、大学院時代を通じて広告理論研究の第一人者であった小林三三郎先生のゼミで学ばれました。

1989 年 4 月に埼玉女子短期大学商学科に専任講師として着任され、1992 年 4 月助教授に昇任されました。その後、1993 年 4 月早稲田大学商学部にて専任講師として新規嘱任され、1995 年 4 月に助教授、2001 年 4 月に教授（改組により 2004 年 9 月から商学学術院教授）へと昇任されました。専任講師に嘱任されて以降、33 年の永きにわたって早稲田において研究と教育の時間を過ごされました。

先生は広告論の研究において多くの業績を残されました。多数の著書や論文を執筆され、また、訳書を通じて海外の広告事情の紹介にも努められました。このような旺盛な研究生活を送られた結果、小林先生と同様に広告研究における第一人者の立場となりました。とくに、広告研究は早稲田大学商学部の強みとする領域ですが、これは小林先生そしてその後継者である嶋村先生のお力によるものです。当然のことながら、先生の研究分野は実業界や産業界とのつながりが深く、創設以来「学理と実際」を重視してきた商学部の伝統や学風を継承され、みずから実践されてこられたということが出来ます。主なものだけを見ても、2016 年 10 月から 2022 年 9 月に掛けて日本広告学会会長、2022 年 4 月から 2024 年 4 月に掛けて日本経済新聞日経広告賞審査委員長などを歴任され、学界等において指導的な立場に立たれました。嶋村先生の教育・研究上の功績につ

いて詳細な紹介は恩藏直人先生による消息をご参照ください。

学内においては、大森郁夫学部長のもとで入試担当教務主任（2004年9月から2006年9月まで）、横田信武学部長のもとで教務担当教務主任（2006年9月から2008年9月）、その後、大学本部に転じられ教務部副部長（2008年9月から2012年9月）、GEC（Global Education Center）の前身であるオープン教育センター所長（2010年9月から2012年9月）を歴任されました。教務主任として大森先生や横田先生を支えられ、他方、お二人の先生からの信任はとても厚いものでした。本部においても全学のFD推進、全学基盤教育の構築に取り組みられました。2012年9月から4年間、商学学術院長、商学部長を務められ、学術院や学部運営に当たられました。この4年間は、学術院内に併存する研究型大学院（商学研究科）と専門職大学院（会計研究科、経営管理研究科、ファイナンス研究科）のあり方が議論されていた時期であり、教員の不祥事も重なるなど心労が増すばかりの案件が山積みでした。傍から見ていても心配したのですが、持ち前の明るさで任期を乗り切られた印象です。

教育面においては先生が担当される広告論は人気のある授業で、毎年数百名の学生が受講しました。授業同様、ゼミも人気があり、巣立った卒業生は600名を超えます。進路も学界、産業界、マスコミ、芸能など多岐にわたります。

私は大森学部長時代、教務担当教務副主任として、また恩藏直人学部長時代の教育システム構想委員会では嶋村委員長を支える副委員長として仕事をともにしました。また、学術院長、学部長経験者として事あるたびに相談に乗っていただき、アドバイスを頂戴することも多々ありで、まさに姉貴的な存在でもありました。ともに苦勞することもありましたが、いまとなつては楽しかった良き思い出ばかりです。

ご退職後、学術の国際交流を目的として設けられた日本学術振興会サンフランシスコ研究連絡センターのセンター長として赴任され、相変わずお忙しい生活を送られています。古稀とは思えないほど若々しい先生ですが、今後ともご健康に留意され、お元気に過ごされることを祈念いたします。先生の早稲田大学とりわけ商学部に対する多大なご貢献に心から感謝を申し上げます。嶋村先生、長きにわたり、ありがとうございました。

早稲田大学商学部長
早稲田商学同攻会長

横山 将義